

## 肺血管拡張療法

### ■ 肺血管拡張薬

肺血管を拡張させる薬は、その作用経路により3つに分かれます。重症度や薬の効果などに応じて、異なる作用を持った複数の薬を併用することもあります。

| 薬    | PGI <sub>2</sub> 誘導体制剤 <sup>1)</sup><br>IP受容体作動薬 <sup>2)</sup><br>PGI <sub>2</sub> 製剤 <sup>3)</sup> | エンドセリン受容体拮抗薬           | sGC刺激薬 <sup>4)</sup><br>PDE-5阻害薬 <sup>5)</sup> |
|------|---|------------------------|--|
| 作用経路 | プロスタサイクリン経路<br>薬 → ↓  | エンドセリン経路<br>薬 → ↓      | 一酸化窒素経路<br>薬 → ↓                               |
| 作用   | 血管を拡張させる物質を増やす<br>↓   | 血管を収縮させる物質の働きを抑える<br>↓ | 血管を拡張させる物質を増やす<br>↓                            |
|      |   |                        |  |
| 投与方法 | 経口<br>吸入<br>注射<br>携帯型の輸液ポンプを使うことで、自宅でも24時間持続的に注入することが可能<br>• 静脈<br>• 皮下                             | 経口                     | 経口   |

1) プロスタサイクリン誘導体制剤、2) プロスタサイクリン受容体作動薬、  
3) プロスタサイクリン製剤、4) 可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬、  
5) ホスホジエステラーゼ-5阻害薬

医療機関名・連絡先

沢井製薬株式会社

## よくわかる肺高血圧症

# 肺動脈性肺高血圧症って どんな治療をするの？

総監修 慶應義塾大学医学部 循環器内科 教授 福田 恵一 先生

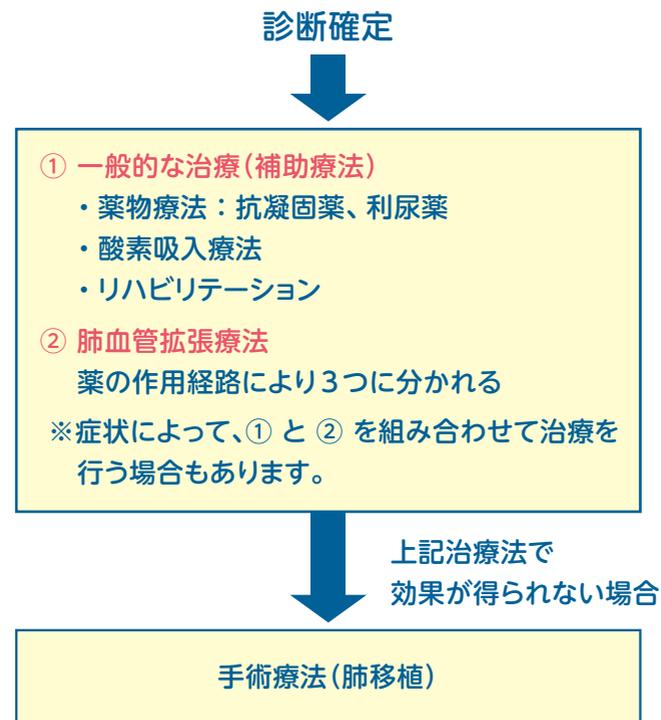
監修 慶應義塾大学医学部 循環器内科 講師 片岡 雅晴 先生



## 肺動脈性肺高血圧症って どんな治療をするの？

肺動脈性肺高血圧症の治療には、症状軽減や合併症予防を目的とした ①一般的な治療(補助療法)と、狭くなった肺の血管を拡げる ②肺血管拡張療法 があります。

主治医とよく相談しながら、患者さんにあった薬や方法で早期に治療を開始することで、普段と変わらない生活を送れるようになり、病気の進行を抑えることも可能になっています。



## 一般的な治療(補助療法)

### ■ 薬物療法

| 薬  | 抗凝固薬                                       | 利尿薬   |
|----|--|---|
| 作用 | 血液を固まりにくくすることで、血液のかたまり(血栓)が肺血管につまるのを予防します。 | 心不全をコントロールするために使います。尿量を増やすことで体内にたまった余分な水分の排出を促し、心臓や肺への負荷を減らします。 |

### ■ 酸素吸入療法

通常の空気より高い濃度の酸素を吸入し、体に不足した酸素を補う方法です。肺動脈性肺高血圧症が進行すると、心臓から血液を送り出す力が弱くなるため、全身の酸素が不足します。そのため、酸素の継続投与が必要な場合には、在宅酸素療法を行うことがあります。



### ■ リハビリテーション

患者さんの状態によって内容・時間・頻度などが異なりますので、主治医の指示に従ってください。

(詳しくは、よくわかる肺高血圧症シリーズ「肺高血圧症患者さんの呼吸法と日常生活動作のポイントは？」をご参照ください。)

